

平成30年度 国保直診セミナー

開催日:平成30年11月29日(木) 場所:琵琶湖ホテル2階「ローズ」

主催:滋賀県国民健康保険診療施設協議会・滋賀県国民健康保険団体連合会

平成30年度 国保直診セミナー

主催:滋賀県国民健康保険診療施設協議会・滋賀県国民健康保険団体連合会



地域包括ケアという概念の浸透や地域ごとでの活動が進むなか、「情報格差」といった多職種連携上の課題や、健康寿命を延ばすにはソーシャルキャピタルから考えるまちづくりが重要であることなどが明らかになってきました。今回の直診セミナーでは、びわ湖あさがおネットを通じて地域連携を進める本多 朋仁医師と、住民と同じ立場でまちづくりに取り組む井階 友貴医師を招き、これからの連携に不可欠な情報共有の仕組みや、立場や役割を超えた地域ぐるみの健康づくりについて伺いました。

びわ湖あさがおネットは、病診間で医療情報を共有していた旧びわ湖メデイカルネットワークと、在宅医療・介護関係者による淡海あさがおネットの機能を統合し、小規模医療機関情報開示機能を加えたICTネットワークとして、本年4月から運用をスタートしました。

患者の医療や生活に関わる情報を病診介護間で共有することにより、入院や転院から退院後の通院、在宅での介護・療養まで、質の高いサービスの切れ目ない提供の実現を目指しています。また、「顔の見える関係」に発展してきた多職種連携の課題の一つである「情報格差」を払拭し、患者を中心とした地域包括ケアの実効性を飛躍させます。



本多 朋仁氏

患者の生活を支えるうえで、在宅医療・在宅療養の「見える化」は不可欠です。しかし、書面等による従来の手法では、医療と介護の物理的距離を埋めることができませんでした。これを解決に導いたのが動画による情報共有です。

例えば、患者がリハビリを開始する

患者の生活を支える
病・診・介護
多職種連携の実現に向け

「動画」による情報共有が
医療と介護の共通言語となり
患者の生活を支えやすい環境に

講演1

びわ湖あさがおネットによる 地域医療連携の「見える化」を進めて

講師 一般社団法人滋賀県医師会 理事
特定非営利活動法人滋賀医療情報連携ネットワーク協議会 理事

本多 朋仁氏